

嶺北地域アクションプランの進捗状況等について

嶺 北 地 域 本 部

令和3年9月15日（水）

嶺北地域アクションプランの進捗状況等

R3.9.15

嶺北地域本部

1 地域アクションプランの令和3年度上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

嶺北地域アクションプラン（25項目）については、嶺北4町村において相互に関連する取り組みや、4町村全てに関わる取り組みが多いことから、常に連携を図りつつ、各町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の取り組みとベクトルを合わせながら推進している。

また、地域アクションプランの取り組みと連携させた畜産と林業の2つの地域産業クラスターに加えて、令和2年度から新たに農業クラスターを追加して、地域へのさらなる波及効果を生み出すべく取り組みを進めており、現在、次世代型園芸用ハウスの整備が進められている。

新型コロナウイルスの感染が首都圏を中心に拡大しており、全国的な経済活動の停滞や地域間交流の減少により、本県でも宿泊施設や飲食店などの観光関連産業や、営業活動の制限などにより、大きな影響が出ているところである。

こうした状況の中で、当地域では、近年のアウトドアブームを受けて、夏以降、モンベルアウトドアビレッジ本山などのラフティングやカヌーなど自然体験型観光が好調に推移しており、また、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた営業活動や、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた生産施設の整備など生産活動の拡大に向けた取り組みが進められているところである。

農業分野では、2町の農業公社等が中山間農業複合経営拠点として策定した事業戦略に基づく取り組みを進めており、また、ブランド米や地域で代々受け継がれてきた銀不老などの生産の拡大も図りながら取り組みを進めている。

畜産分野では、土佐あかうしの増頭が順調に進んでいるほか、大川黒牛の生産体制の強化に向けた取り組みが進められている。また、土佐はちきん地鶏については、生産からHACCPに対応した加工施設での丁寧な処理・加工、販売までの一貫体制のもと、県内をはじめ都市圏での販売促進やブランド化に取り組んでいる。

林業分野では、さらなる原木増産や安定供給を図るとともに、木質バイオマス発電施設の整備など、地域内での連携した取り組みや森林組合への支援に取り組んでいる。また、集落活動センター西峯におけるスギのコンテナ苗は、集落の基幹ビジネスとなるように生産技術の向上や栽培量の拡大に取り組んでいる。

観光分野では、アウトドアヴィレッジ本山やさめうらカヌーテラス等の拠点施設を中心に、さらなる交流人口の拡大に取り組んでいるところであり、また、令和元年度に開催された「2019土佐れいほく博」の成果と課題を踏まえながら、4町村及び地域内の観光関係者がさらなる連携と、地域経済の活性化を図るため、令和2年12月1日に（一社）土佐れいほく観光協議会を設立し、本年4月から本格的に業務を開始した。

そのほか土佐酒造(株)では、地元産の酒米にこだわった日本酒の販路拡大に向けて、日本酒を通年生産できる施設整備に、また、(有)さめうらフーズも新工場の整備に着手したところである。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 5 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大豊町銀不老生産組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館 ・大豊町 	<p>[指標]</p> <p>出荷量</p> <p>出発点 (H30) : 0.59 t</p> <p>直近値 (R2) : 0.13 t</p> <p>到達目標 (R3) : 0.75 t</p> <p>目標 (R5) : 1.2 t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>出荷量 (R3.6月末) : 0.22t (対前年同期比 : 183%)</p> <p>※昨年のコロナ渦により取扱量が減少していたが、今年度は取引が一定回復したため。</p> <p>○銀不老の生産強化に向けた活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報等による農家への銀不老生産の呼びかけ (6月) 新規組合員登録者数 : 4人 ・銀不老種子配布会の実施 (6月) 参加者 : 30人 <p>○実施主体の体制確立 (出荷体制の仕組み作り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会開催 (6月) <p>○品質の確保及び統一化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術相談会開催 (6月) 参加者 : 5人 <p>○銀不老の普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐川町の洋菓子製造業者が銀不老を使った商品の開発 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な運営体制の確立及び銀不老の普及活動 ⇒新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、組合員相互の意見交換、情報共有を進めるとともに、イベント等を開催し、さらなるブランド化を進めていく。 ・栽培技術等の普及・指導 ⇒新たな栽培者の確保に向けて、普及・指導の会議等の開催を実施していく。
<p>■No. 6 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・エフビットファームこうち(株)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 施設野菜出荷量</p> <p>出発点 (H30) : 107 t</p> <p>直近値 (R2) : 105 t</p> <p>到達目標 (R3) : 120 t</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>◎・施設野菜農家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本山町 ・ (一財)本山町農業公社 ・ JA 高知県 (土長地区) <p>※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)</p>	<p>目標 (R5) : 360 t</p> <p>(2) 新規就農者数 (施設野菜 : 雇用就農含)</p> <p>出発点 (H28~R元) : 1人</p> <p>直近値 (H28~R2) : 2人</p> <p>到達目標 (H28~R3) : 4人</p> <p>目標 (R2~R5) : 6人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 施設野菜出荷量 (R3.1月~6月) : 13.4 t (対前年同期比 : 88.1%)</p> <p>(2) 新規就農者数 (R3.6月末) : 4人 (対前年同期比 : 200%)</p> <p>※今年度6月末までに2名採用のため。</p> <p>○施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境制御技術研修会開催 (6月) 参加者 : JA 営農指導員4名 ・ 防除対策、整枝剪定技術指導 米ナス2回、甘長トウガラシ1回、カーベーマン1回、シトウ1回 ・ 次世代園芸用ハウス営農開始に向けた検討会 (2回) <p>○産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園芸農家経営意向調査 (6月~) <p>○二次・三次産業と連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本山町連絡会開催 (3回) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JA 高知県れいほく園芸部の品目ごとの現地検討会と連携した活動の実施 ⇒環境測定・日射比例制御かん水・自動開閉装置等の導入に関する情報提供や作業軽減に向けた実証実験を行い、各農家のニーズに応じた支援を続ける。 ・ 次世代型園芸用ハウスの施設整備に合わせた人材確保及び人材育成の実施と、営農開始に向けた支援 ⇒営農開始に向けて、関係機関で連携して支援を行う。 <p>○産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JA 高知県れいほく園芸部の担い手支援と連携した活動の実施

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒JA や生産部会等から情報を収集し、水田等の農地情報や、空きハウスなどの情報を担い手に提供していく。</p> <p>○二次・三次産業との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスター形成による関係二次・三次産業への経済波及効果の拡大 <p>⇒パブリカ規格外品の活用に向けた加工品の開発の検討や、施設を活用した農業体験ツアー等の検討を進めていく。</p> <p>⇒本山さくら市のマネジメント強化。</p>
<p>■No.7 (株)大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み(大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)大豊ゆとりファーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町 	<p>[指標]</p> <p>クールベジタブルの販売額</p> <p>出発点 (H28～30 平均) : 913 万円</p> <p>直近値 (R2) : 1,050 万円</p> <p>到達目標 (R3) : 1,155 万円</p> <p>目標 (R5) : 1,400 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>クールベジタブルの販売額 (6 月末) : 0 万円</p> <p style="text-align: right;">※植え付け中 (対前年同期比 : 一%)</p> <p>○農地保全に向けたビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産物 (ぜんまい) の製造受託 (4 月) ・地域特産物 (基石茶) の製造受託 (6 月) <p>○新規就農者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊受入検討・準備 (4～6 月) <p style="text-align: center;">受入人数 : 1 人</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○農地保全に向けたビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益率向上に向けた品目選定の実施 <p>⇒収益率の高い品目を数種類に選定しつつ、さらなる高収益作物の栽培検討を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営改善の取り組み <p>⇒産業振興アドバイザー(課題解決型)の導入検討</p> <p>○新規就農者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集活動及び受入体制の強化

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒地域おこし協力隊の受入を進めつつ、移住者関係での新規就農者確保に向けた検討を進めていく。
<p>■No.8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興(土佐町、本山町、大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)れいほく未来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉用牛生産組合 ・JA 高知県(土長地区) ・本山町 ・土佐町 ・大豊町 <p>※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>土佐あかうしの販売額</p> <p>出発点(H30):3.2億円</p> <p>直近値(R2):3.5億円</p> <p>到達目標(R3):3.3億円</p> <p>目標(R5):3.5億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>土佐あかうしの販売額(4月~6月):0.8億円 (対前年同期比:150.7%)</p> <p>※出荷頭数が増加(40頭→52頭)</p> <p>※平均価格が増加(67万円→103万円)</p> <p>○農家の経営規模の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥育牛出荷頭数:52頭 ・肥育牛素牛導入:6頭((株)れいほく未来) ・(株)れいほく未来に関する検討会・意見交換会(1回) <p>○飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回指導(18回) ・篤農家肥育飼養管理指導(6回) <p>○県内産粗飼料の積極的な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WCS(稲発酵粗飼料)の購入希望 6戸、1,245ロール <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○土佐あかうしの増頭</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒繁殖雌牛の保留・導入への支援継続 ⇒分娩間隔の短縮による収益性の向上 ⇒肥育農家への支援継続による子牛取引価格の維持・向上 ⇒受精卵移植による肥育素牛の増頭 ⇒TRBブランドの強化による枝肉価格の向上 <p>○堆肥の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒嶺北地域だけでは利用できなくなって来ていることから、香長平野等で利用するシステムの構築を検討していく <p>○稲発酵粗飼料(稲WCS)の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入飼料の高騰により安価な飼料の利用を促進

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒供給量が希望数量と比較して少ないため作付け面積の拡大を検討していく
<p>■No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化(大川村)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)むらびと本舗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)大川村ふるさとむら公社 ・大川村 <p>※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 黒牛の販売額</p> <p>出発点(H30): 7100万円</p> <p>直近値(R2): 6,753万円</p> <p>到達目標(R3): 5,500万円</p> <p>目標(R5): 7,500万円</p> <p>(2) はちきん地鶏の出荷羽数</p> <p>出発点(H30): 7.4万羽</p> <p>直近値(R2): 6.2万羽</p> <p>到達目標(R3): 6.5万羽</p> <p>目標(R5): 12.5万羽</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 黒牛の販売額(R3.5月末): 1,500万円 (対前年同期比: 268.1%)</p> <p>※出荷頭数の増加のため(6頭→11頭)</p> <p>(2) はちきん地鶏の出荷羽数(R3.4月末): 0.5万羽 (対前年同期比: 80.8%)</p> <p>○大川黒牛生産・出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥育素牛導入: 3頭 ・子牛生産頭数(自家産): 23頭 ・肥育素牛出荷頭数: 11頭 ・定期巡回指導(3回) <p>○はちきん地鶏生産体制の強化と飼養管理・食鳥処理技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐はちきん地鶏事業経営会議(1回) (産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)制度を活用) ・大川村「土佐はちきん地鶏」事業再建チーム会議 (1回) (産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)制度を活用) ・土佐はちきん地鶏事業経営改善シミュレーション会議 (2回) (産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)制度を活用) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用による生産性及び鶏肉の質の向上のための自動給餌機及び関連設備導入(7月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>○黒牛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛の増頭 ⇒一貫生産体制の充実に向けた体制や牛舎増築等の検討 ・新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込み ⇒オンラインを活用した販売促進イベントなど新たな取り組みの検討を行う。 <p>○はちきん地鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はちきん地鶏事業推進体制の強化 ⇒事業財務分析の結果を踏まえ、事業の推進体制の強化を行っていく。 ・新型コロナウイルスの影響で不透明な需要や変化する顧客ニーズへの対応 ⇒鶏肉の品質向上に努め、更なる販路拡大に取り組んでいく。
<p>■No. 10 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み（嶺北地域全域）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・自伐林家</p> <p>◎・森林組合</p> <p>◎・素材生産事業体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者 ・高知おおとよ製材(株) ・嶺北広域原木安定供給協議会 ・大豊町 ・本山町 ・土佐町 ・大川村 <p>※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>素材生産量</p> <p>出発点（H30）：105,557 m³</p> <p>直近値（R2）：111,704 m³</p> <p>到達目標（R3）：130,000 m³</p> <p>目標（R5）：130,000 m³</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>素材生産量（R3.4～6月見込）：22,088 m³ （対前年同期比：70.82%）</p> <p>※素材生産に向けた準備時期（設備の設置、人材の育成）となったため、前年より減少している。</p> <p>○安定的な木材生産・供給システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材増産推進プロジェクトチーム会開催（4月） ・森林組合支援ワーキング（4月） ・事業周知のための林業担当者説明会（5月） ・大川村森林組合スマート林業導入勉強会（2回） <p>○再造林の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業用苗木実態調査（得苗1回、作付3回） <p>○木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用材活用に係る支援（4町村） <p>4～6月 564 t</p> <p>○製材品等の生産</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・ CLT 施設構造研修会 (4月) ・ 製材工場による原木の消費 (大豊町、本山町) 4～6月 30,379 m³ <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 素材生産量のさらなる確保 ⇒事業量を確保するために、森の工場を推進し、生産性向上に向けた支援を行っていく。 ・ 皆伐事業の増加に対する森林資源の維持 ⇒嶺北地区増産・再造林推進協議会を開催し、伐採跡地への再造林を推進していく。 ・ 担い手確保と林業技術の継承 ⇒林業大学校との連携
<p>■No. 12 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興 (本山町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(有)さめうらフーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集落活動センター汗見川 ・ 生産者 	<p>[指標]</p> <p>シソ・ユズ商品の販売額</p> <p>出発点 (H30) : 0.65 億円</p> <p>直近値 (R2) : 0.6 億円</p> <p>到達目標 (R3) : 0.7 億円</p> <p>目標 (R5) : 1 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>シソ・ユズ商品の販売額 (R3.6月末) : 0.16 億円 (対前年同期比 : 101%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新工場の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業庁事業再構築補助金申請 (4月) ・ 中小企業庁事業再構築補助金採択 (6月) ○新商品の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 清涼飲料水の新商品開発検討開始 (4月～) ・ 食品商社主催商談会への参加 (4～6月) ○しそ生産地拡大の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ しその販売促進キャンペーンの実施 (7～9月) ○ゆず生産の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆず園の拡大に向けた検討 (4月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新工場整備の実施 ⇒事業再構築補助金を活用し、今年度にも新工場の整備を行う。

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 ⇒新工場の整備に合わせて、飲料の新商品の開発を行う。
<p>■No. 17 嶺北地域で 140 年続く酒蔵の地産外商を核とした地域活性化（土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐酒造(株)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 売上高</p> <p>出発点 (H30) : 1 億 5,067 万円</p> <p>直近値 (R2) : 2 億 1,470 万円</p> <p>到達目標 (R3) : 2 億 2,000 万円</p> <p>目標 (R5) : 2 億 2,000 万円</p> <p>(2) 地元産原料米調達量</p> <p>出発点 (H30) : 88 t</p> <p>直近値 (R2) : 100 t</p> <p>到達目標 (R3) : 115 t</p> <p>目標 (R5) : 125 t</p> <p>(3) 従業員数</p> <p>出発点 (H30) : 15 人</p> <p>直近値 (R2) : 17 人</p> <p>到達目標 (R3) : 21 人</p> <p>目標 (R5) : 25 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 売上高 (R3.4 月末) : 2,100 万円 (対前年同期比 : 199.4%)</p> <p>※輸出量が増加したため。</p> <p>(2) 地元産原料米調達量 (R3.6 月末) : 0 t (対前年同期比 : - %)</p> <p>(3) 従業員数 (R3.6 月末) : 17 人 (対前年同期比 : 100%)</p> <p>○生産性の向上及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモート商談及び四国内への営業強化 (4~6 月) ・日本酒造連合会ガイドラインに基づく HACCP 取得準備 (4~6 月) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金の活用による需給調整できる体制の構築 (R3.3 月着工、10 月末完了予定) <p>○地元産原料米の調達拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した農家への酒米作りに向けた声かけ <p>契約農家数 : 19 戸</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○雇用の創出及び地域経済活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早明浦ダム貯蔵酒お披露目会 (5月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○新型コロナウイルスの影響で不透明な需要や変化する顧客ニーズへの対応</p> <p>⇒品質向上に努め、高価格帯の商品へのニーズに対応していく。</p> <p>○国内外での販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による各種商談会の中止 <p>⇒販路拡大に向けて、顧客と交流を行うことができるオンライン上で実施していく。</p> <p>○地元産原料米の調達拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米農家への対応 <p>⇒同交付金を活用して酒米生産を始めた農家による生産拡大を通じて、酒米のさらなる確保に取り組んでいく。</p> <p>○雇用の創出及び地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出量の増加に伴う物流体制の確保 <p>⇒パート及び事務員を募集し、物流体制及び生産体制を確保していく。</p>
<p>■No. 18 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎・猪鹿工房おおとよ ◎・燈ので家 ・大豊町商工会 	<p>[指標]</p> <p>(1) 処理頭数 (猪鹿工房おおとよ)</p> <p>出発点 (H30) : 163 頭</p> <p>直近値 (R2) : 85 頭</p> <p>到達目標 (R3) : 200 頭</p> <p>目標 (R5) : 300 頭</p> <p>(2) 出荷量 (燈ので家)</p> <p>出発点 (H30) : 0t</p> <p>直近値 (R2) : 0.2t</p> <p>到達目標 (R3) : 1.8t</p> <p>目標 (R5) : 2.1t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 処理頭数 (R3.5月末) : 14 頭(対前年同期比 : 43.7%)</p> <p>(2) 出荷量 (R3.5月末) : 0.02t (対前年同期比 : 58.8%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、取引量が減少したため。</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>【猪鹿工房おおとよ】</p> <p>○生産体制強化に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新県版 HACCP 第2ステージ取得に向けた作業 (4月～) ・地域おこし協力隊の導入に向けた企業研修の実施 (8月) <p>○先進的な個体管理手法の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した捕獲システムの検討(4月～) <p>○加工品の開発及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNS等のさらなる魅力化の検討(4月～) 他の事業者とのコラボなど <p>【燈ので家】</p> <p>○ペットフードの生産拡大及び販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路PAや空港事業者とのブース出展検討(4月～) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)導入検討(6月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○猪鹿工房おおとよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保 ⇒新商品の開発や生産体制の拡充に向けて、地域おこし協力隊等の外部人材確保を進めていく。 ・捕獲個体の品質管理の強化 ⇒トレーサビリティシステム導入など先進的な個体管理手法の検討を進め、品質管理の強化に取り組む。 ・ICTを活用した新たな捕獲技術の導入 ⇒通年で安定的な捕獲ができる体制を構築する。 ・加工品の開発及び販促活動の推進 ⇒新たな顧客獲得に向けて、HP等によるオンライン販売を継続しつつ、新たなニーズに応じた商品開発の検討を進める。 <p>○燈ので家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットフードの生産及び販路拡大 ⇒産業振興アドバイザー(課題解決型)の助言に基づき、首都圏でのテストマーケティング等を実施し、生産及び販路拡大に向けた取り組みを検討していく。
<p>■No. 19 嶺北地域の連携による交流人口の拡大(嶺北地域全域)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設の入込数 出発点(H27～H29平均): 284,813人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)土佐れいほく観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 <p>※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)</p>	<p>直近値(R2): 279,191人</p> <p>到達目標(R3): 387,109人</p> <p>目標(R5): 468,647人</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数</p> <p>出発点(H27~H29平均): 14,577人</p> <p>直近値(R2): 17,399人</p> <p>到達目標(R3): 18,423人</p> <p>目標(R5): 22,292人</p> <p>(3) 民泊受入世帯数</p> <p>出発点(H30): 89世帯</p> <p>直近値(R2): 83世帯</p> <p>到達目標(R3): 91世帯</p> <p>目標(R5): 120世帯</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要観光施設の入込客数(R3.6月末): 74,178人 (対前年同期比: 147.4%)</p> <p>※R2年度は新型コロナウイルスの影響により入込客数が大きく落ち込んだが、R3年度は回復傾向となった。(対R元年同期比: 90.7%)</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数(R3.6月末): 4,981人 (対前年同期比: 386.7%)</p> <p>※R2年度は新型コロナウイルスの影響により宿泊客数が大きく落ち込んだが、R3年度は回復傾向となった。(対R元年同期比: 84.5%)</p> <p>(3) 民泊受入世帯数(R3.6月末): 83世帯 (対前年同期比: 96.5%)</p> <p>○組織体制・機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員総会開催(4月、6月) ・4町村観光主管課長等会実施(4月、5月、7月) ・嶺北地域アドバイザーによる観光素材の掘り起こし(5月~) 本山町、大豊町 <p>○広域観光推進体制の強化(嶺北地域が一体となったプロモーションの展開、セールス活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県観光コンベンション協会主催観光説明会(4月) 東京: 10社 ・SNS、HP等を利用したPR ・フジトラベルサービス日帰りツアー募集(5月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○教育旅行の推進（教育旅行の広域化の推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県教育旅行誘致連絡会への出席（5月、6月） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）土佐れいほく観光協議会の各種事業の実行 ⇒事業戦略（R3～R5年度）に沿って、官民の関係者が一体となって広域観光の推進に向けたPDCAを回していける体制を構築する。 ⇒嶺北地域の情報発信やセールス活動を行うとともに地域の観光人材育成のための研修等を実施する。 ・教育旅行の推進体制の整備 ⇒地域の活動者や行政との連携による研修会の開催を行い、農家等民泊受入家庭を確保するとともに、安全管理や体験交流メニュー等民泊の品質向上対策に取り組んでいく。
<p>■No. 25 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み（本山町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・汗見川活性化推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 宿泊者数（延べ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 出発点（H30）：838人 直近値（R2）：436人 到達目標（R3）：1,400人 目標（R5）：1,400人 <p>(2) シソ原液出荷量</p> <ul style="list-style-type: none"> 出発点（R元）：7,092L 直近値（R2）：8,460L 到達目標（R3）：9,000L 目標（R5）：9,000L <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 宿泊者数（R3.7月末）：295人 (対前年同期比：447.0%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染対策によりR2.4～6月を休業したため。</p> <p>(2) シソ原液出荷量（R3.7月末）：5,166L (対前年同期比：197.9%)</p> <p>※収穫時期を早めたため。</p> <p>○交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そば打ちイベントの実施（8月：4組） ・大阪市西区の小中学校等への副読本の配布

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○しその生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しそ出荷者会議開催(6月) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○大阪市西区との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携したイベントへの出展 ⇒新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、西区におけるイベントへの参加が難しくなっている状況だが、小学生向け副読本を活用した学習やその他の活動を進め、西区との交流拡大を図っていく。 <p>○イベント及び体験メニューの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナでのイベント等実施 ⇒R3年度のイベントについては、新型コロナウイルス感染状況をみながら開催するとともに、オンラインも含め体験事業を実施していく。 <p>○シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培マニュアルの配布 ⇒R2年度に作成したシソ栽培マニュアルを生産者に配布し、汗見川及び町内他エリアでの生産拡大を図る。

- 2 令和3年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)
該当なし
- 3 県民参画に向けた取り組み
該当なし
(新型コロナウイルスの影響により、森林組合総会や商工会総会などが中止となったため。)
- 4 相談案件
該当なし

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指しています。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、19のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況	
額北	農業	No.5 額北畜産クラスタープロジェクト	額北地域の特産物である土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏のさらなる生産拡大とともに6次産業化による付加価値を高め、増産しながら販路拡大を進めるとともに、雇用の場の創出と観光資源の磨き上げを図る。	これまでの取り組み（H28～R2）	土佐あかうしについては、畜舎等整備による飼養頭数の増加や、増産のための技術的支援の実施、大川黒牛については肥育牛舎の整備及び「大川村プロジェクト」の推進による販売増につなげた。土佐はちきん地鶏については、加工のための食鳥処理施設の整備のほか、生産体制の効率化や販売戦略の見直しを行った。また、外商会社と連携したPRなど販売促進を行った。
		関連する地域AP No.8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の振興 No.9 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化ほか		R3年度の取り組み	【取り組み状況】 土佐あかうしについて、篤農家による肥育牛の飼養管理指導及び（株）れいほく未来に関する関係者協議を実施している。土佐はちきん地鶏については、土佐はちきん地鶏事業再建チームによる、生産体制の効率化や販売促進に必要な支援を実施している。 【課題と今後の対応】 ・れいほく未来のマネジメント強化に向けた支援。 ・土佐はちきん地鶏の新たな販路の確保に向けた支援。
	林業	No.6 額北林業クラスタープロジェクト	県内外の若者が山に関する仕事に就くことができる環境を整備するため、額北地域の豊かな森林資源を活用し、安定的な木材生産・供給システムを構築する。	これまでの取り組み（H28～R2）	安定的な木材生産・供給システムの構築に向けて、森の工場（小規模な森林をまとめて一体的に整備したもの）の認定を推進。そのことにより認定数が増加（H28：37団地→R元：44団地）した。また大豊町で整備していたストックヤードが稼働し、地域外への製材製品の安定供給が可能になった。なお、木質バイオマス発電施設については、急遽、県のR2.9月補正で整備することになったことにより、整備が遅れている。
関連する地域AP No.10 額北地域における林業クラスター化の取り組み No.11 れいほくスケルトン（額北材の邸別販売）をはじめとする額北材の促進ほか	R3年度の取り組み	【取り組み状況】 国産材需要の高まりを受けて木材流通が活発化している。木質バイオマス発電施設建設工事が着工となった。 【課題と今後の対応】 額北材の需要喚起に向けたPR、営業活動の強化。			
農業	No.7 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト	次世代型園芸ハウスの整備等による農産物の生産拡大や担い手の確保を行うとともに、交流人口の拡大に向けた取り組み等との連携により、クラスターの形成を図る。	これまでの取り組み（R2）	次世代園芸ハウスの整備を進めている。また、本山町農業公社と額北高校の学生がパブリカを使った加工品を共同開発するとともに、アウトドアビレッジ本山（モンベル）と、農業体験ツアーの造成に向けての協議を開始した。	
関連する地域AP No.4 直販所「さくら市」を核とした地域活性化 No.20 額北広域観光アウトドアの里づくりほか	R3年度の取り組み		【取り組み状況】 次世代園芸ハウス建設工事に着工し、従業員（職員・パート）の募集を開始した。また、アウトドアビレッジ本山（モンベル）と農業体験ツアーの造成に向けた協議を行っている。 【課題と今後の対応】 ・次世代園芸ハウスでの安定生産に向けた従業員の確保。 ・本山さくら市の売上高向上に向けた組織体制の強化。		